

中学校国語解答用紙（解答例）

その二

[三] 毛筆を使用する指導を全学年で必ず実施し、毛筆を使用する指導と硬筆を使用する指導の割合を学校と生徒の実態に即して適切に設定すること。

各学年、国語科全体の授業時数に応じて適切に書写の時間を設定すること。具体的には一学年は授業時数の十分の二程度、二、三学年は授業時数の十分の一程度。

国語科全体として計画する場合に限らず、書写の指導を特別に取り出して年間にわたって計画したり集中的に指導したりする場合であっても、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域や言語事項の指導と関連させた指導計画になるようにすること。

[四] (一) 伊勢物語

(二)	品詞名	a	助動詞	活用形	a	連体形
	b	動詞	b		連用形	
	c	形容詞	c		連用形	

(三) (1) 親が近江の守である人の娘に、人目をはばかり通っていた。

(3) まったくお目にかかることができそうにはありません。すぐ、お帰りください。

(四) ものいひつたへさする人

(五) 女

(六) 男が女のもとへ通うことがなくなってしまう

(七) 男が、女の家のひどい仕打ちを恨みつつ帰ろうと歌ったのに対し、女は、親の仕打ちが厳しくあなたに逢うこの身には難儀なことが多いのだと返している。

[五] (一) a あつム b ひそカニ c つかへヨ d なカレ

(二) 及^ヒ高祖^ツ擊^ニ項羽^ヲ

(三) そこで王陵は兵を率いて漢に属した。

(四) 羽陵の母を取りて軍中に置く。

(五) 王陵の母を人質に取ることで王陵を自分の味方につけようとした。

(六) 王陵の母は、自分が生きていなければならない息子の足手まといとなり、息子が漢王を裏切つてしまふうと思つたから。